

島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2015.FEB vol. **33**



埼之西入海堺也、南入海所在、雜物入鹿和

入り海の記憶

知られざる出雲の面影

「入り海」の謎に迫る 企画展



国家指定 宮縣出土銅柱
徳文館蔵 出雲国立博物館蔵
Shimane Pref. Izumo Archives

CONTENTS

- 2・3 (特集) 企画展「入り海の記憶-知られざる出雲の面影-」
- 4 展覧会通信
- 5 学芸員通信
- 6 れきはく通信
- 7 古代セン通信
- 8 れきはくごよみ/お知らせ

企画展

「入り海の記憶—知られざる出雲の面影—」

開催期間:平成27年3月27日(金)～5月17日(日) 休館日4月21日(火)

開催場所:古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間:9:00～18:00

3月27日(金)は企画展開会式のため特別展示室のみ10:00開場となります。

出雲を象徴する景観の一つに、城下町松江を湖畔に映し出す宍道湖があります。宍道湖・中海は『出雲国風土記』に「入り海」として登場し、そこに多くの動植物が棲み「水の恵み」を享けてきました。

ただ、宍道湖・中海は動植物にとっての「恵み」だけではありません。このような「入り海」は、古代・中世において、内水面交通の拠点として政治・経済・文化上、大きな役割を果たしていたことがわかっています。とりわけ、そこに港や役所が置かれることで、山陰・北陸地域ではヒト・モノ・情報の集まる場として機能し、その地を育む母体となったといえます。

本展覧会では、「入り海」が、人々にとっていかなる存在であったかを、考古・歴史・美術・民俗などの豊富な資料をもとに考えます。また、近世以降、「入り海」の陸地化と港の消滅に伴う人々の生活の変貌についても紹介し、失われつつある「入り海」の「記憶」をたどります。

【プロローグ 入り海とは】

『出雲国風土記』の「入海」という言葉にスポットをあて、本展における「入り海」を定義づけ、古くは出雲大社の近くまで広がっていた「神門水海」を含む、日本の「入り海」を紹介します。

〔主な展示品〕 ・鹿蔵山遺跡出土資料（出雲市蔵）

【第1章 北陸の入り海】

古代・中世の北陸で、「入り海」に流れ込む河川の河口部や、「入り海」それ自体の海へ注ぐ出口付近に形成された港および公的施設にスポットをあてながら、「入り海」を利用した内水面の交通の実態に迫ります。

〔主な展示品〕 ・加茂遺跡出土資料（石川県埋蔵文化財センター・津幡町教育委員会蔵）
・的場遺跡出土資料〔新潟県指定文化財（新潟市教育委員会蔵）

《トピックⅠ 入り海を行き交った船》

「入り海」が水上交通の舞台として機能していた時期、「入り海」の港を出入りした船がどのようなものであったのかについて紹介します。

【第2章 山陰の入り海】

山陰の「入り海」の交通利用をうかがわせる資料とともに、「入り海」とその周辺から発見されている古代・中世の山陰の遺跡を紹介し、「入り海」沿岸において展開した多様な交流・生業について明らかにします。

〔主な展示品〕 ・伯耆一宮経塚出土資料〔国宝〕（倭文神社蔵・東京国立博物館保管）
・伯耆国河村郡東郷庄之図（模本）（東京大学史料編纂所蔵）

《トピックⅡ よみがえる「古益田湖」》

島根県教育委員会や益田市教育委員会で調査研究が進められている「古益田湖」の成果の一部を紹介します。

【第3章 埋め立てられた入り海】

近世以降、日本海沿岸の各地の「入り海」で展開した新田開発の実態と地域社会の反応について、近世の絵図を中心に紹介します。

〔主な展示品〕 ・紙本著色蓮湖真景之図〔金沢市指定文化財〕（個人蔵）
・寛永出雲国絵図（当館蔵）

【第4章 入り海に生きる】

近現代にいたるまで、「入り海」は周辺に暮らす人々の日常生活と密接にかかわる身近な環境でした。近年までみられた水を介しての多様な生業のあり様を紹介します。

〔主な展示品〕 ・漁労図屏風（サントリー美術館蔵）

【エピローグ 入り海を生かす—宍道湖の光景—】

宍道湖を主な素材として、現代の「入り海」の観光的利用を紹介します。



加茂遺跡出土土人面墨書土器
（津幡町教育委員会蔵）



国宝 伯耆一宮経塚出土
銅造千手観音菩薩立像
（倭文神社蔵〔写真提供〕東京国立博物館）



漁労図屏風 右隻（サントリー美術館蔵）
〔会期中右隻・左隻の展示替えあり〕

担当学芸員による「入り海」こぼれ話

古代出雲歴史博物館 学芸員 吉永壮志

『出雲国風土記』は、現在の宍道湖・中海を「入り海」と表現しています。これは、古代において、宍道湖・中海が一つの水域であったこと、そして、閉じた空間ではなく、海に通じ、開かれた空間であったことを示しています。

ただ、現在の私たちにとって、聞き慣れない「入海」ということば。実は今から400年近く前の江戸時代の人々も知らなかったことが、江戸時代はじめに書写されたと考えられる『出雲国風土記』（当館蔵）からうかがえます。

左の写真は、鳥根郡について記しているところの一部ですが、返り点や送り仮名から「埼の西は海の堺に入るなり。凡そ南は海に入り、在る所の雑物は入鹿・和尔」と読んでいます。しかし、これでは意味が通じず、本来なら「埼の西は海（うみ）の堺なり。凡そ南の入海（いりうみ）に在る所の雑物は入鹿・和尔」と読むべきなのです。つまり、江戸時代には、すでに「入海」を名詞として把握できず、「入」と「海」に分解して理解しているのです。

そのようなこともあって、本展覧会において、「入海」ではなく、「入り海」と表記するようになったかどうかは、皆様のご想像にお任せしますが、「入り海」（ということば）が長らく忘れられていた、そして、今も忘れられているのは間違いありません。

しかしながら、最初に述べたように、「入り海」は開かれた空間であり、それゆえ、海と陸の結節点として、政治・経済・文化など、さまざまな面で大きな役割を果たしてきました。

本展覧会では、忘れられ、いまやほとんど知られなくなった「入り海」の「記憶」を、国宝3件・重要文化財1件を含む、考古・歴史・美術・民俗などの豊富な資料からたどっていきます。

これが、「入り海の記憶—知られざる出雲の面影—」という、謎めいた本展覧会のタイトルのゆえんですが、是非、館にお越しいただき、出雲の地を育んだ「入り海」のあゆみ、そして、本展覧会のタイトルに込められた意味を味わっていただければ担当者として嬉しく思います。



国宝 伯耆一宮経塚出土
金銅観音菩薩立像
(倭文神社蔵[写真提供]東京国立博物館)



細川藤孝(幽斎)像[部分](永青文庫蔵)

企画展関連講座

■関連講座

平成27年4月12日(日) 13:30~15:00

「海へとつながる湖の記憶—古代出雲、そして「北ツ海」の港の風景—」 講師：森田喜久男氏（淑徳大学）

■関連講座

平成27年4月19日(日) 13:30~15:00

「越後平野の成り立ちとそこに生きた人々」 講師：水澤幸一氏（胎内市教育委員会）

■関連講座

平成27年4月26日(日) 13:30~15:00

「中世山陰の「入り海」の世界」 講師：西田友広氏（東京大学史料編纂所）

【関連講座共通】

各定員：100名 無料（要申込） 場所：古代出雲歴史博物館 講義室

申込方法：電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください。

企画展ギャラリートーク

■学芸員による展示解説

平成27年4月12日(日)・19日(日)・26日(日)

※時間：いずれも10:00~11:00

※企画展観覧料もしくはパスポートが必要です。

企画展関連イベント

■ミニサイズでちょっとかわいい木簡キーホルダーをつくろう！

平成27年5月10日(日) 10:00~16:00

材料費：100円 申込不要 場所：体験工房

27年度 企画展の紹介

古代出雲歴史博物館 学芸部長 的野克之

当館で27年度に開催する展覧会について、それぞれ詳しくご説明しましょう。まず春季に開催する企画展「入り海の記憶 知られざる出雲の面影」です。この展覧会のテーマは「入り海」。出雲を代表する景観のひとつである宍道湖・中海は『出雲国風土記』に「入海」として登場します。入り海は内水面交通の要所として政治・経済・文化にとって大きな役割を果たしてきました。その出雲の入り海が人々にとってどのような存在であったかをこの展覧会は解き明かします。

次に開催するのは、特集展「じっくり味わう 絵巻」です。美術館や博物館で絵巻物の展示をご覧になって不満に思ったことはありませんか。多くの場合絵巻物は長すぎるので、その一部しか展示されません。今回の絵巻物、たとえば大名行列を描いた「雲州公御上京御行列」はその長さ42メートル。それを一気に開いて展示します。42メートルの大迫力をお楽しみください。

夏季は特別展「東アジア交流の盛華 琉球王国」です。沖縄県は140年ほど前まで琉球王国という独立国でした。その琉球王国の王家であった尚家に伝わっていた国宝玉御冠たまのおかんむりなど数多くの文化財を展示します。これだけの琉球の文化財がまとめて展示される機会は滅多にありません。絵画、彫刻、染織、漆器、陶芸など沖縄を代表する美術品も、数多く沖縄からやってきます。ぜひ会場で沖縄を感じてください。

秋季は企画展「古代出雲の祭祀世界 神 人 祈り(仮)」です。古代の人々にとって神は恩恵を与えてくれる存在であり、災いをもたらす畏れの対象でもありました。この神の力に対して人々はどのように対応してきたのでしょうか。数多くの神宝などを展示し、そのテーマを解明して行きます。パワースポットなどに興味をお持ちの方々にもぜひ見ていただきたい展覧会です。

冬季は特集展「出雲に米作りが伝わった 西川津遺跡と出雲の弥生遺跡から(仮)」です。日本列島において稲作が本格的に始まったのは弥生時代です。出雲の弥生時代を代表する西川津遺跡からは、木製品をはじめとする様々な遺物が見つかり、弥生時代の人々の生活を把握することが出来ました。この展覧会では、様々な出土品から分かった弥生時代の出雲の人々の新たな姿を見ていただきます。

最後に特別展「遷宮 受け継ぐところとかたち展(仮)」です。平成28年3月で出雲大社の「平成の大遷宮」が終了します。それを機に、改めて出雲大社の遷宮の歴史を紹介します。同時に出雲大社の平成の大遷宮の撮影を行ってきた写真家増浦行仁氏の写真も展示します。どれも見逃すには惜しい展覧会ばかりです。ご期待ください。



古代出雲歴史博物館 企画展スケジュール 2015

- 企画展**
入り海の記憶
 知られざる出雲の面影
 2015年3月27日(金)～5月17日(日)
 中央館中央ホール(1/A0110)
- 特集展**
じっくり味わう「絵巻」
 2015年6月6日(土)～7月5日(日)
 中央館中央ホール(1/A0110)
- 特別展**
東アジア交流の盛華 琉球王国
 2015年7月22日(水)～8月31日(月)
 中央館中央ホール(1/A0110)
- 企画展**
古代出雲の祭祀世界 神と人祈り(仮)
 2015年10月9日(土)～11月29日(日)
 中央館中央ホール(1/A0110)
- 特集展**
出雲に米作りが伝わった 西川津遺跡と出雲の弥生遺跡から(仮)
 2015年12月18日(金)～2月14日(日)
 中央館中央ホール(1/A0110)
- 2016年春 3月～5月(予定)** **特別展 遷宮 受け継ぐところとかたち展(仮)**

① 博物館施設案内

古代出雲歴史博物館 交流・普及課 主任研究員 伊藤徳広

皆さんは当館で開催している各種体験イベントに参加されたことはありますか。体験イベントでは様々な道具や設備を使うため、当館には専用の建物があります。

その建物とは、当館の敷地内にある“体験工房”で、体験活動を十分行える設備や道具が充実しています。

まず外観は、斬新な斜めの屋根とコンクリートの壁、そして、ガラス面で構成されています。斜めに突き出た屋根の下では各種イベントや勾玉作り、クラスでお弁当を食べることもできます。体験工房は東西がガラス張りで、風土記の庭や体験水田、そして出雲大社神苑も望むことができる開放的な空間となっています。体験工房の床面積は85㎡で、勾玉作りや石膏銅鐸作りなどの体験学習をクラス単位で受けることが可能です。水道とガス台も備えているので、古代食作りや勾玉型のチョコ作りなどの簡単な調理も行っています。天候が悪い日に来館された学校の皆さんが昼食場所として利用することもできます。また、電動ろくろや土器を焼く電気釜もあるので、粘土から土器を作って、焼き物を作ることもできます。

このように、様々な体験学習が可能な体験工房にはもう一つ当館自慢の体験メニューがあります。前号まで何度かご紹介している“藍染め”です。体験工房の建物の一室には石製と陶器製の藍がめが2基設置されています。この2つの藍がめによって本格的な藍染めが行うことができるのです。本格的な藍染めは日々の管理をしっかり行う必要があり、どこでもできる体験ではありません。当館自慢の藍染めに参加される機会がありましたら、体験してみてください。

このように色々な体験学習が可能な“体験工房”は、各種学校でのご利用を始め、四季のまつりや毎月行われる当館ボランティアによるイベントで活躍しています。博物館ニュースやHP、公式フェイスブックページのイベント情報をチェックしてみてください。



② ボランティア活動

古代出雲歴史博物館ではボランティアスタッフが日々活動しており、来館者への説明や体験学習の補助などを積極的に行っています。ボランティア団体の正式名称は「古代出雲歴史博ボランティアスタッフの会」といいます。現在、70名を超える会員によって運営されています。

さて、皆さんは「しませ家庭の日」をご存じでしょうか。家庭が担う役割の重要性を再認識し、家族の絆を強め青少年の健やかな育成を基本とした運動で、当館では、毎月第3日曜日は高校生以下の観覧料が無料になります。そこで、しませ家庭の日に多くの方にお越しいただきたいと、ボランティアスタッフが主体となって体験イベントを実施することになりました。

ボランティアスタッフ一同、様々な体験を計画して皆さんをお迎えします。ぜひ博物館へお越しください。



平成27年度のボランティア主催のイベント実施日は、4月19日、5月10日、6月21日、7月26日、8月23日、9月20日、10月11日、11月15日、12月20日、1月17日、2月21日、3月20日の予定です。(日程については変更になることがあります。)

※5月と10月は第2日曜日、7月と8月は第4日曜日が体験イベントになります。

(大変申し訳ありませんが、第2、第4日曜日の観覧料は小学生以上有料です。)

※イベントには体験料が必要なものがあります。

特集展

じっくり味わう「絵巻」

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 岡 宏三



しばしば美術館や博物館で展示されますが、見ていて「イラッときた」ことはありませんか？

一部分しか開いてない。場面の細かい部分の意味がわからない。全体のストーリー展開がわからない、文章が流麗な文字で書いてあるけど読めない。「あー、ただのきれいな絵だな」で終わっては、面白くもなんともないのも当たりまえ。

そこで今回の展示では、当館が所蔵する絵巻などを、できるだけ、めいっぱい開いてごらんいただきます。

なかでも孝明天皇の即位の大礼に際して、松江松平9代藩主・松平斉貴が、将軍・徳川家慶の名代として家臣をひきいて京都に上洛した時の行列図「雲州公御上京御行列」【写真：下】は、全長約42メートルの大迫力。行列の荷物、家臣の名前など、ポイントごとに解説をつけ、会期中は全部広げてご覧いただくことにしました。



また、初代松江松平藩主・松平直政の信頼を受け、絶大な権勢を誇った家老・村松内膳が、幕府の御用絵師で狩野宗家・狩野安信に特注した「村松山内善禪寺慕縁記」では、描かれた内善寺と村松内膳の広大な別荘の敷地が、今の松江市西尾町のどこにあたるのかも含めて紹介します（期間中、上・下巻を展示替え）。

このほかにも、ダイコクさん・エビスさんたち福の神が大活躍する、ユーモラスな奈良絵巻「梅津の長者」を前期、「大黒舞」を後期にごらんいただくほか、妖怪たちの行列図として名高い「百鬼夜行絵巻」（大田市・物部神社所蔵。特別出陳）など、様々な絵巻をご覧ください。

鎌倉時代から江戸時代にわたる珍しい絵巻、ユニークな絵巻の数々を、じっくりとお楽しみください。

特集展『じっくり味わう「絵巻」』

開催期間：平成27年6月6日(土)～7月5日(日) 休館日6月16日(火)

開催場所：古代出雲歴史博物館 特別展示室



古代王権と祭祀に関する比較研究

島根県古代文化センター 専門研究員 松尾充晶



大飛鳥祭祀遺跡(岡山県笠岡市)の奈良三彩と金銅鈴(8世紀重要文化財)
瀬戸内海の通航にかかわる祭祀で、銅鏡や皇朝十二銭などの貴重な品々が多い。

古代文化センターでは平成25～27年度の3年間、「古代王権」と「祭祀」をテーマにした研究事業を実施してきました。難しそうなタイトルですが、ひとことで言えば「古代の社会において目に見えない存在、“神”を祭ることがどのような意味を持ったか」という点を追究しようという試みです。神といっても天照大御神や大国主神のような、国全体の成り立ちに関わり神話上特別な扱いをされる神格がある一方で、地域社会の村々には山や岩に宿る名も無い無数の神々が観念されていました。また、神は大いなる恵みを与え生命を支えてくれる存在ですが、火山鳴動や地震といった自然災害が起こるのもまた神のはたらきと考えられ、荒ぶる神が人智を超えた力により旱魃^{かんばつ}や疫病など災いをもたらすことを人々はたいへん畏れていました。古代において生命の保障、社会の維持のためには神を鎮め祭ることが欠かせず、それゆえに大きなエネルギーが注がれたのです。そして各地の有力な豪族・首長たちにとっては、支配領域の安定した生産活動を保つための神祭り執行が極めて重要な役割で、それが地域の人々をまとめる上で大きな意味を持っていました。

このように神祭りは社会の仕組みと不可分なものでしたから、政治的なできごとや権力、支配関係の動向と一体的に変化します。ここに古代王権と地域社会の関係を読み解くことが可能で、例えば5世紀に広域交通上の要衝地を足がかりにして共通する祭祀形態が全国に広がってゆく様子や、7世紀後半に全国の神社を管理する制度的枠組みが誕生する過程からは、祭祀を介した国家の成立過程を具体的に読み取ることができるでしょう。本事業では、祭祀がおこなわれた遺跡やその出土品、神社の立地や分布、『延喜式』や『風土記』をはじめとする文献史料の記載などを手がかりにして、ヤマト王権の進展を経て律令国家が誕生する古墳時代～飛鳥時代～奈良時代(4～8世紀)という時代に焦点を当て研究を進めています。古代文化センターのスタッフだけでなく、神祇制度や王権論、神話伝承、祭祀考古学の専門的研究者に客員研究員として加わっていただき、活発な議論を重ねています。

ところで、ご存じのように『古事記』『日本書紀』には出雲がたびたび登場し、特に神話の舞台として大きな役割を果たしますが、出雲がそのような「神々の国」としての特別な性格を帯びた背景はどこにあるのでしょうか？ 杵築大社の創建や出雲国造の神賀詞奏上儀礼といった事柄が端的ですが、それだけでなく、8世紀の出雲国には極めて多くの神社が実在し、建築物としての社殿出現が早いというような、具体的な特異点があることがわかってきました。王権神話の形成にあわせて他地域に先駆けるように、出雲国をあげて独特な祭祀形態の整備が進んだ可能性が考えられます。そうした出雲に関わる謎にも歴史学の視点から迫っていく、というのが本研究の目的のひとつです。こうした研究成果の一端は、今年10月9日から11月29日まで開催予定の企画展「古代出雲の祭祀世界 - 神 人 祈り(仮)」で公開して参ります。どうぞご期待ください。



鳥居松遺跡(静岡県浜松市)の円頭大刀(部分:6世紀)
川に投じて捧げられた豪華な飾り大刀。地域首長がおこなう祭祀とみられ、同様の事例は出雲でも認められる。

開館記念日イベントのお知らせ

古代出雲歴史博物館 雲太くんです。

毎年3月10日は古代出雲歴史博物館の誕生日。平成19年に開館して、今年で8周年となります。今年もたくさんのイベントで皆様と誕生日を楽しみたいです。

開催日：平成27年3月8日(日) 10時～16時

開催場所：古代出雲歴史博物館 講義室

○祝い餅つき 10時30分～/13時30分～ (各回30分) 体験工房

○紙芝居&クイズ

「れきはくってどんなところ？」 11時～/14時～ (各回20分)

紙しばいとクイズでれきはくを楽しく紹介するよ！

○ゲームであそぼ 10時～16時 随時受付

①「うんたくんをさがせ！」

館内にかくれてるうんたくんとその仲間を探してキーワードを完成。

正解するとプレゼントがもらえるよ！

②「お宝発掘ゲーム」

ねむれるお宝カードを発掘！

③「土器ドキ！青銅器パズル」

きみはいくつ完成させられるか！

○つくってあそぼ 10時～16時 随時受付

①「ぜったいたおれない！ど根性青銅器」

かんたん！かわいい！ミニおきあがりこぼし

②「ニヨキニヨキ モクモク何が出る？」

プーっと息を吹き込むとムクムク出てくるビニール風船

③「幸せのハートの葉っぱで、オリジナルカードをつくろう」

ハート型のカツラの葉っぱでHAPPYに♡



そのほかにも・・・

- ジャンボひまわりの種プレゼント
無くなり次第終了
- パスポートWポイント
3月8・9・10日 3日間
- 雲太くんも登場

お知らせ

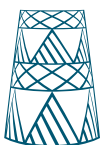
アテンダント通信

こんにちは。アテンダントの尾添です。歴博の閉館時間は通常18時ですが、11月～2月の間は17時に閉館します。アテンダントはこの時間を「冬時間」と呼び、春に向けて一人ひとりがより成長できるように、閉館後の時間を利用して様々な研修を実施しています。アテンダント同士が指導し合うアナウンス研修や手話研修、学芸員による講座を開いたり、ゆったりとした冬の時間を有意義に過ごします。普段同じ建物の中にながらも、実は、学芸員の話をつくりと聞く機会が少ない私たちにとっては、この講座は、歴博の展示を改めて知ることができ、学芸員の展示への思いも知ることができ、貴重な時間です。そして私たちアテンダントの原動力にもなります。

また今年度は、長い海外生活のあと、1ターンで大社に移住して来られた吉野愛さんから英会話の研修も受けました。一番大切なことは、“笑顔”と“伝えようとする一生懸命な気持ち”。そうおっしゃる先生は、元気いっぱい笑顔がとても素敵です。英会話力だけでなく女性としての心根も磨いていただきました。冬に磨いた心根を芽吹かせ、歴博という大きな木に美しく花を咲かせるアテンダント。そんなアテンダントに出会うことも楽しみに、展示と共に、どうぞ春の歴博へお出かけ下さい。



発行/平成27年2月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん